

ARIUS

YDP-S34

基本編

応用編

資料

取扱説明書

ご使用前に必ず5～8ページの「安全上のご注意」をお読みください。

組み立て説明については巻末をご参照ください。

目次

取扱説明書について.....	4
付属品(お確かめください).....	4
安全上のご注意.....	5
各部の名称と機能.....	10

基本編

ご使用前の準備.....	11
キーカバーと譜面立てについて.....	11
電源を入れる/切る.....	12
音量(ボリューム)を調節する.....	12
オートパワーオフ機能.....	13
ヘッドフォンを使う.....	13
ピアノとして演奏する.....	14
インテリジェント・アコースティック・ コントロール(IAC)を使う.....	14
ペダルを使う.....	15
ダンパーレゾナンスをオン/オフする.....	15
鍵盤の操作音をオン/オフする.....	16
鍵盤のタッチ感度を変える.....	16
メトロノームを使う.....	17

応用編

音色を楽しむ.....	18
音色を選ぶ.....	18
デモ曲を聞く.....	19
音に残響を付ける(リバープ).....	20
キー(調)を変える(トランスポーズ).....	21
音の高さを微調整する(チューニング).....	21
2つの音色を重ねる(デュアル).....	22
二人で一緒に弾く(デュオ).....	23
ソング再生と練習.....	24
クラシック名曲50選(プリセットソング)を聞く...24	24
コンピューターから読み込んだ曲を聞く.....	24
パートを指定して片手練習する.....	25
最初の発音からすぐにスタートする (クイックプレイ).....	25

演奏を録音する.....	26
演奏を録音する.....	26
録音済みのユーザーソングの設定を変える.....	27
録音した演奏を消去する.....	27

コンピューターやスマートデバイスと 使う.....	28
スマートデバイスのアプリケーションを使う.....	28
オーディオデータを再生/録音する (USBオーディオインターフェース機能).....	28

データのバックアップと初期化.....	29
電源を切ったときに記憶されるデータ.....	29
ユーザーソングデータをコンピューターに 保存する.....	29
初期化(イニシャライズ)する.....	29

資料

困ったときは.....	30
組み立て方.....	31
仕様.....	34
索引.....	35
クラシック名曲50選 (プリセットソング)一覧.....	36

このたびは、ヤマハ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この楽器は、高品位な音とタッチで演奏をお楽しみいただける電子ピアノです。
この楽器に搭載された機能を十分に活かし、演奏をお楽しみいただくため、
本書をよくお読みになってからご使用ください。

また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管していただきますようお願いいたします。

取扱説明書について

この楽器には、以下の説明書が用意されています。

冊子マニュアル



取扱説明書(本書)

この楽器の機能や使い方を説明しています。



クイックオペレーションガイド(別紙)

ボタンや鍵盤に割り当てられた機能の一覧表です。

電子マニュアル(PDF)



iPhone/iPad接続マニュアル

この楽器をiPhoneやiPadなどのスマートデバイスと接続する方法を説明しています。



コンピューターとつなぐ

この楽器とコンピューターを接続する方法や、MIDIデータを送受信する方法などを説明しています。



MIDIリファレンス

この楽器のMIDIに関する資料を掲載しています。



MIDI入門

MIDIについての基礎知識を説明しています。

上記マニュアルは、ヤマハのウェブサイトからご覧いただけます。インターネットに接続して以下のウェブサイトを開き、モデル名を入力して検索してください。

ヤマハ ダウンロード

<http://download.yamaha.com/jp/>

付属品(お確かめください)

- 取扱説明書(本書)
- クイックオペレーションガイド
- クラシック名曲50選(楽譜集)
- 電源アダプター
- 保証書
- 製品ユーザー登録のご案内

スマートデバイスアプリケーション 「スマートピアニスト」

専用のアプリケーション「スマートピアニスト」(無料)をスマートデバイスで使用すると、外部から楽器本体の機能をコントロールでき大変便利です。視覚的にもわかりやすく直感的な操作ができます。

このアプリケーションについては、以下のウェブサイトでご確認ください。

<http://jp.yamaha.com/kbdapps/>

楽器とスマートデバイスの接続については、「スマートピアニスト」の接続ウィザードで、使用環境に応じた接続方法を確認できます。接続ウィザードを開始するには、「スマートピアニスト」の画面左上の「☰」(メニュー)をタップしてメニュー画面を開き、「楽器」→「接続ウィザードを開始する」を順にタップします。

安全上のご注意




ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

電源アダプターについて



警告



禁止

ヤマハ製電子楽器以外に使用しない。
電源アダプターは、ヤマハ製電子楽器専用です。他の用途には、ご使用にならないでください。故障、発熱、火災などの原因になります。



禁止

電源アダプターは、室内専用のため屋外および水滴のかかる環境では、使用しない。また、水の入った物、花瓶などを機器の上に置かない。
内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。



注意



必ず実行

製品は電源コンセントの近くに設置する。
電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに製品の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

楽器本体について

警告

電源 / 電源アダプター



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流100Vを使用する。

エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源アダプターは、必ず指定のもの(34ページ)を使用する。

異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。

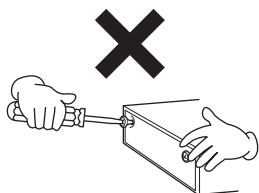
分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上でろうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になりません。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

⚠ 注意

電源 / 電源アダプター



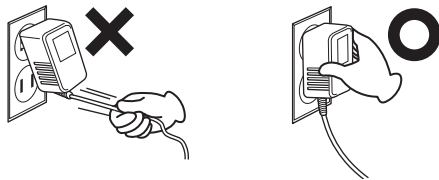
禁止

たこ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電や火災、故障の原因になることがあります。

組み立て



必ず実行

本書の組み立て方の説明をよく読み、手順どおりに組み立てる。
手順どおりに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

転倒防止用具は、必ず取りつける(31ページ)。
本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々がかげがをしたりする原因になります。

設置



禁止

不安定な場所に置かない。
本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々がかげがをしたりする原因になります。



必ず実行

この製品を持ち運びする場合は、必ず2人以上で行なう。
この製品を1人で無理に持ち上げると、腰を痛めたり、この製品が落下して破損したり、お客様やほかの方々がかげがをしたりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。
コードをいためたり、お客様やほかの方々転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この製品を電源コンセントの近くに設置する。
電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。
感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。
聴力障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



キーカバーや本体のすき間に手や指を入れない。また、キーカバーで指などはさまないように注意する。

禁止

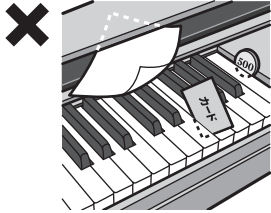
お客様がけがをするおそれがあります。



キーカバーやパネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

禁止

感電、ショート、火災、故障や動作不良の原因になることがあります。



禁止

キーカバーを閉めるときは無理な力を加えない。キーカバーには「ソフトランディング」機構が付いており、キーカバーがゆっくり閉まるようになっています。閉めるときにキーカバーに無理な力を加えると「ソフトランディング」機構が破損し、手指をはさんでけがをするおそれがあります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様やほかの方々がかげがをしたりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。聴覚障害の原因になります。



- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

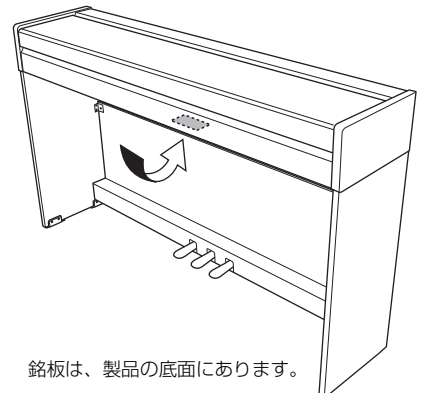
[o](スタンバイ/オン)スイッチを切った状態(電源ランプが消えている)でも微電流が流れています。[o](スタンバイ/オン)スイッチが切れているときの消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

機種名(品番)、製造番号(シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

製造番号

(bottom_ja_02)



銘板は、製品の底面にあります。

注記(ご使用上の注意)

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱いに関する注意

- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。iPhone、iPad、iPod touchなどのスマートデバイスと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるためスマートデバイスの機内モードをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
- 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります(5℃~40℃の範囲で動作することを確認しています)。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。

■ 製品のお手入れに関する注意

- 手入れするときは、乾いた柔らかい布、または水を含ませた柔らかい布を固くしぼってご使用ください。鍵盤の頑固な汚れには「エレクトーン・クラビノーバ用鍵盤クリーナー」をお使いください。ベンジンやシンナー、アルコール、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。
- 極端に温湿度が変化すると、本体表面に水滴がつく(結露すること)があります。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭きとってください。
- ペダルは一般的なアコースティックピアノ同様経年変化によって変色することがあります。その際はピアノ用コンパウンドを楽器店などでお買い求めいただき、使用上の注意をよくご確認のうえで使用ください。

■ データの保存に関する注意

- この楽器の一部のデータ(29ページ)は自動的に保存され、電源を切っても消えません。ただし保存されたデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、コンピューターなどの外部機器に保存してください。

この製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

お知らせ

■ データの著作権に関するお願い

- ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いいたします。
- この製品に内蔵または同梱されたコンテンツは、ヤマハ(株)が著作権を有する、またはヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物です。製品に内蔵または同梱されたコンテンツそのものを取り出し、もしくは酷似した形態で記録/録音して配布することについては、著作権法等に基づき、許されていません。
 - ※上記コンテンツとは、コンピュータープログラム、伴奏スタイルデータ、MIDI データ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどを含みます。
 - ※上記コンテンツを使用して音楽制作や演奏を行ない、それらを録音や配布することについては、ヤマハ(株)の許諾は必要ありません。

■ 製品に搭載されている機能/データに関するお知らせ

- 内蔵曲は、曲の長さやイメージが原曲と異なる場合があります。

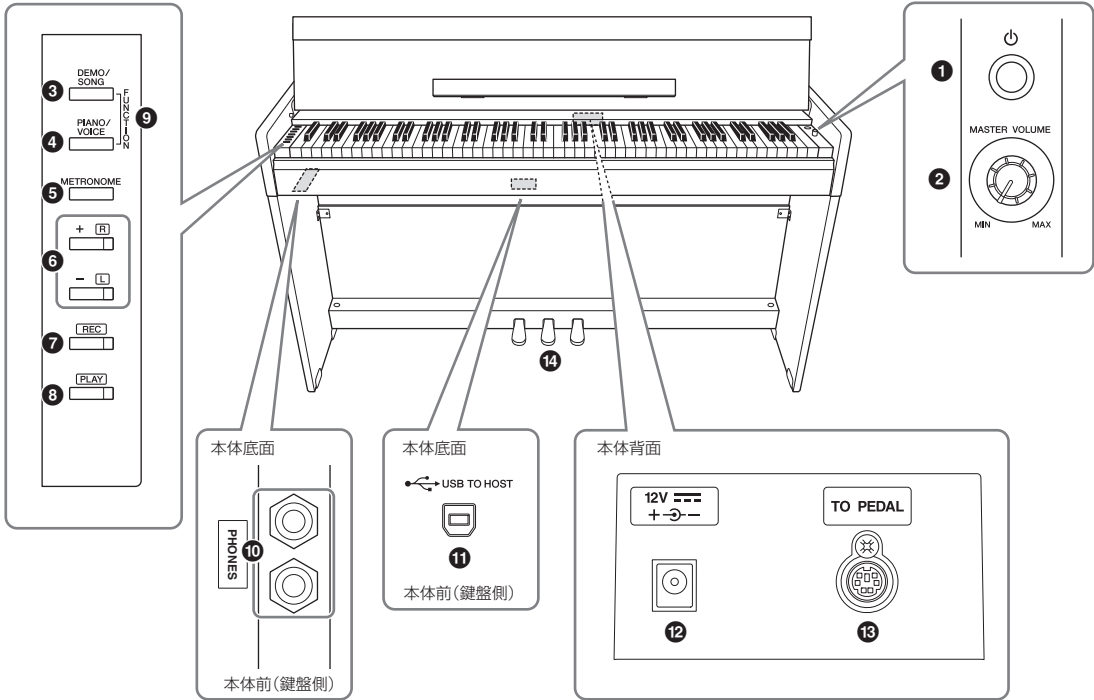
■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- お買い上げの品番の末尾は、「B」「WH」などアルファベットが記載されています。これは、「B」が「ブラックウッド調仕上げ」、「WH」が「ホワイトウッド調仕上げ」など仕上げの情報を表しています。この取扱説明書では、品番の末尾の仕上げの情報は省略しています。
- iPhone、iPad、iPod touchは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

■ 調律について

- 調律の必要はありません。電源を入れるといつでも正しいピッチ(音の高さ)でお使いいただけます。

各部の名称と機能



① [⏻] (スタンバイ/オン) スイッチ 12ページ
電源のオン/スタンバイを切り替えます。

② [MASTER VOLUME] つまみ 12ページ
楽器全体の音量を調節します。

③ [DEMO/SONG] ボタン 19、24ページ
音色ごとのデモ曲やプリセットソングを聞くことができます。

④ [PIANO/VOICE] ボタン 18、20、22ページ
「CFXグランド」をはじめとした音色を選択したり、2つの音色を重ねて使うために選択したりできます。

⑤ [METRONOME] ボタン 17ページ
メトロノームの機能を利用できます。

⑥ [+R]、[-L] ボタン 17、18、24、25ページ

- 音色を順次選択します。
- ソング再生中は、ソングを順次選択したり、[PLAY] ボタンを押したまま右手パート、左手パートを個別にオン/オフします。
- メトロノーム再生中は、テンポを増減します。

⑦ [REC] ボタン 26ページ
自分の演奏を録音します。

⑧ [PLAY] ボタン 26ページ
録音した演奏を再生します。

⑨ [FUNCTION] 13、21ページ
[DEMO/SONG] と [PIANO/VOICE] ボタンを同時に押したまま、指定した鍵盤を押すことによりオートパワーオフ機能やトランスポーズなどの設定ができます。

⑩ [PHONES] 端子 13ページ
ヘッドフォンを接続します。

⑪ [USB TO HOST] 端子 28ページ
コンピューターやiPhone、iPadなどのスマートデバイスと接続します。

⑫ DC IN 端子 12ページ
付属の電源アダプターを接続します。

⑬ [TO PEDAL] 端子 32ページ
ペダルコードを接続します。

⑭ ペダル 15ページ
アコースティックピアノのように、音を響かせたり音質をやわらかくしたいときに使用します。

ご使用前の準備

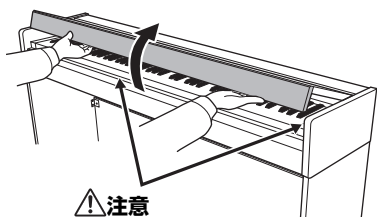
キーカバーと譜面立てについて

⚠注意

キーカバーを開閉するときは、両手で静かに行ない、途中で手を離さないでください。また、ご自分や周りの方、特にお子様などが、キーカバーの端と本体の間に手や指をはさまないようにご注意ください。

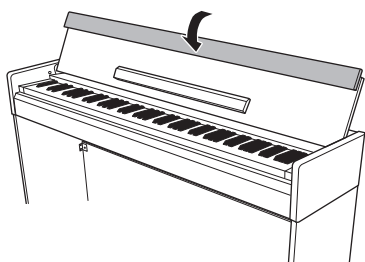
キーカバーを開ける

1. 手前のくぼみに手をかけ両手でカバーをゆっくりと持ち上げます。
2. キーカバーの上側の部分を手前に倒します。

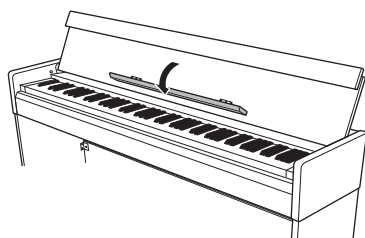


⚠注意

手や指をはさまないように注意してください。



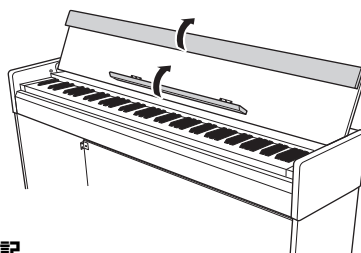
3. 譜面立てを手前に倒します。



キーカバーを閉める

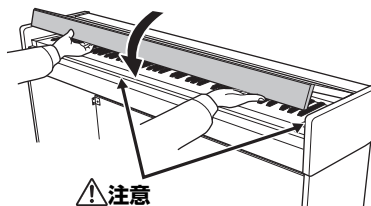
1. 譜面立てをキーカバー側に戻します。
2. キーカバー上側の部分を下から持ち上げ手前に立てます。
3. キーカバーを持って手前にゆっくりと倒します。

キーカバーには「ソフトランディング」機構が付いており、キーカバーがゆっくり閉まるようになっています。



注記

譜面立ては必ずキーカバー側に戻してからキーカバーを閉めてください。キーカバー上側部分は、手前に立ててからキーカバーを閉めてください。



⚠注意

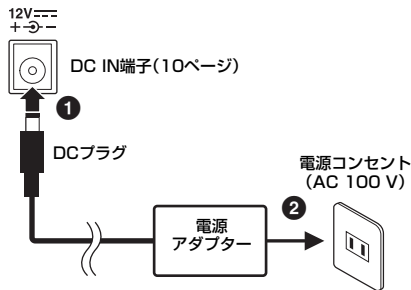
手や指をはさまないように注意してください。

⚠注意

キーカバーを閉めるときは無理な力を加えないでください。閉めるときにキーカバーに無理な力を加えると「ソフトランディング」機構が破損し、手指を挟んでけがをするおそれがあります。

電源を入れる/切る

1. 図の順序で電源アダプターを接続します。



⚠警告

電源アダプターは、必ず指定のもの(34ページ)をご使用ください。異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。このような場合は、保証期間内でも保証いたしかねることがございますので、十分にご注意ください。

⚠注意

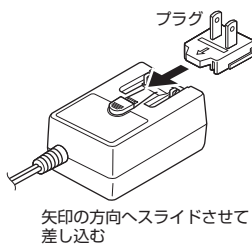
本体はコンセントの近くに設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

NOTE

電源アダプターを外すときは、電源を切ってから、逆の手順で行なってください。

プラグ部分が外れるタイプの電源アダプターの場合

電源アダプターのプラグは外さないでください。外れてしまった場合は、内部の金属部分に手を触れないように注意して、カチッと音がするまで完全に差し込んでください。



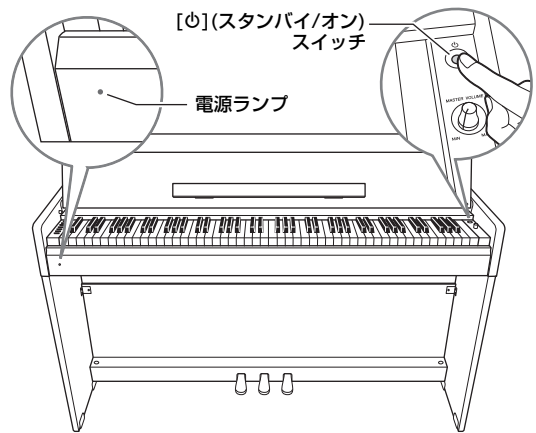
矢印の方向へスライドさせて差し込む

⚠警告

- 電源アダプターは、必ずプラグを装着した状態で使用、または保管してください。プラグ部分だけをコンセントに差し込むと、感電や火災の原因になります。
- プラグを取り付ける際、内部の金具部分は触らないでください。また異物が入らないようご注意ください。感電やショート、故障の原因になります。

2. 鍵盤右の[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。

鍵盤左のボタンのランプが点灯し、消灯すると楽器が起動します。



電源ランプ

電源を切り忘れてキーカバーを閉めてしまった場合、電源ランプの点灯により、電源が入ったままであることを知らせてくれます。

電源を切るときは、もう一度[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを1秒以上押して指を離します。電源ランプが消灯します。

⚠注意

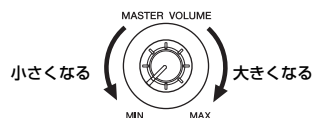
電源を切った状態でも微電流が流れています。この楽器を長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

注記

電源を入れてから、楽器が完全に起動するまで、楽器を操作(鍵盤やボタンを押す、ペダルを踏むなど)しないでください。楽器が誤動作する原因になります

音量(ボリューム)を調節する

鍵盤を弾いて音を出しながら、鍵盤右の[MASTER VOLUME]つまみを左右に回して、全体音量を調節します。



⚠注意

大きな音量で長時間使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

オートパワーオフ機能

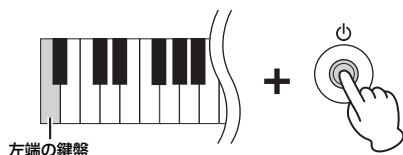
この楽器は、電源の切り忘れによる無駄な電力消費を防ぐため、オートパワーオフ機能を搭載しています。これは、本体が30分操作されないと自動的に電源が切れる機能です。

初期設定: 有効

オートパワーオフ機能の簡単解除

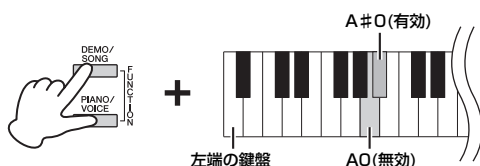
いったん楽器の電源を切ります。

A-1 (左端の鍵盤)を押したまま[☺](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。[REC]ランプが3回点滅し、オートパワーオフ機能が無効になります。



オートパワーオフ機能の有効/無効を切り替える

[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]ボタンを同時に押したままA#0 (有効)またはAO (無効)の鍵盤を押します。

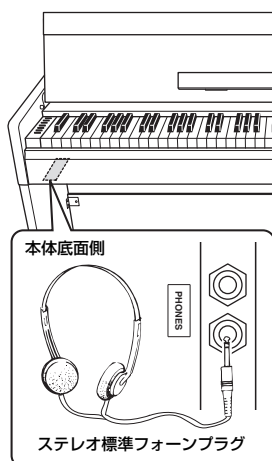


ヘッドフォンを使う

この楽器には[PHONES]端子が2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しめます。

初期設定では、どちらかの[PHONES]端子にヘッドフォンを接続すると、自動的にスピーカーから音が出なくなります。

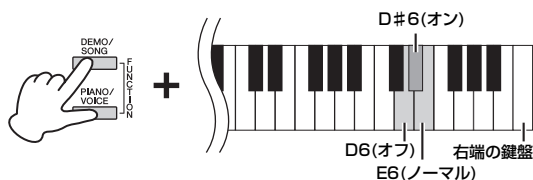
⚠注意
大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。



スピーカーのオン/オフの設定

楽器本体のスピーカーから音を出す(オン)、出さない(オフ)を設定できます。

[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]ボタンを同時に押したままD6~E6の鍵盤を押します。



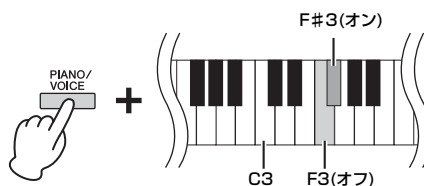
オフ (D6鍵盤)	常にスピーカーから音が出ません。
オン (D#6鍵盤)	ヘッドフォンが接続されていても、常にスピーカーから音が出ます。
ノーマル (E6鍵盤)	ヘッドフォンが接続されると、スピーカーから音が出なくなります(初期設定)。

音の距離感を再現する (ステレオフィオニックオプティマイザー)

ステレオフィオニックオプティマイザーは、ヘッドフォンの音に対して、アコースティックピアノの前に座って弾いているかのような音の広がりを実現する機能です。通常、ヘッドフォンでは、音が耳のすぐそばで鳴っているように聞こえますが、この機能がオンの場合は、ピアノ本体から音が鳴っているような自然な距離感を得られます。

初期設定: オン

[PIANO/VOICE]ボタンを押したまま、F#3鍵盤を押すとオン、F3鍵盤を押すとオフになります。



ピアノとして演奏する

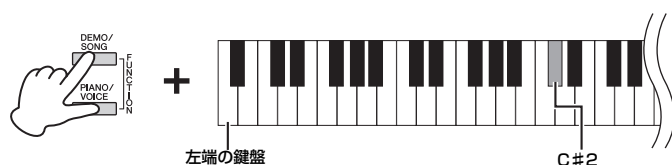
インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)を使う

インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)とは、楽器の全体音量の大小に応じて、自動的に音質を補正する機能です。音量が小さい場合でも、低音や高音がしっかりと聞こえるようになります。IACは、この楽器のスピーカーからの出力音のみに有効です。

初期設定:
オン

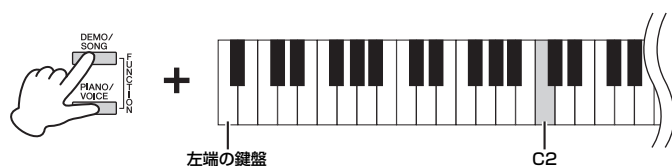
IACをオンにする

[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]ボタンを同時に押したまま、C#2鍵盤を押します。



IACをオフにする

[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]ボタンを同時に押したまま、C2鍵盤を押します。



IACのかかり具合を調整する

[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]ボタンを同時に押したまま、D2 (1ずつ下げる)またはE2 (1ずつ上げる)鍵盤を押して補正のかかり具合を調整します。



IACのかかり具合の値が大きいほど、音量が小さいときの低音や高音が、よりしっかりと聞こえるように補正されます。

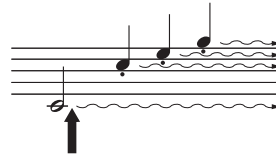
設定範囲:
-3 ~ +3

初期設定:
0 (D#2)

ペダルを使う

右のペダル(ダンパーペダル)

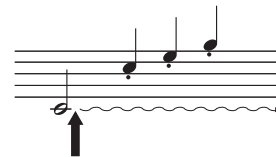
このペダルを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても弾いた音は長く響きます。この楽器のダンパーペダルはハーフペダル機能に対応しています。



ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く。

まん中のペダル(ソステヌートペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く。

左のペダル(ソフトペダル)

このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくします。ペダルを踏む前に押さえていた鍵盤の音には効果はかかりません。

NOTE

ダンパーペダルが効かない場合、ペダルコードのプラグが[TO PEDAL]端子に差し込まれていないと思われます。確実に差し込んでください(32ページの手順6)。

ハーフペダル機能とは

ペダルの踏み加減で音の伸び具合が調節できる機能です。ペダルを踏みこむほど音が長く伸びます。ペダルを踏んで音が響きすぎたとき、踏み込んだ状態からペダルを少し戻して音の響きを抑える(音の濁りを減らす)ことができます。

NOTE

オルガンやストリングスの音色では、ソステヌートペダルを踏むと、音が減衰せず、踏んでいる間鳴り続けます。

NOTE

ジャズオルガンの音色を選ぶとロータリースピーカーの回転の速い/遅いの切り替え、ビブラフォンの音色を選ぶとビブラートのオン/オフ機能に切り替わります。

ダンパーレゾナンスをオン/オフする

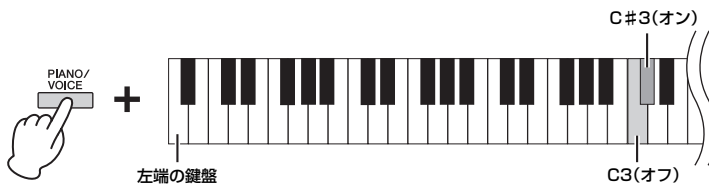
ダンパーレゾナンスがオンの状態でダンパーペダルを踏むと、ダンパーの残響音が付加され、ピアノのダンパーペダルを踏んだときに近い効果が得られます。初期設定ではオンになっています。ダンパーレゾナンスの効果は、ピアノの音色(18ページ)のみにかかります。

ダンパーレゾナンスをオンにする

[PIANO/VOICE]^{ピアノ} ボタンを押したまま、C#3鍵盤を押します。

ダンパーレゾナンスをオフにする

[PIANO/VOICE]ボタンを押したまま、C3鍵盤を押します。



初期設定:

オン

鍵盤の操作音をオン/オフする

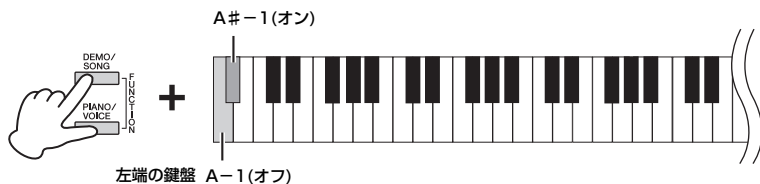
ボタンと鍵盤を使って設定を変更したときに、操作音(クリック音、または「オン」「オフ」、テンポの入力数値の音声読み上げ)が鳴ります。この操作音を鳴らす(オン)、鳴らさない(オフ)を設定できます。

操作音をオンにする

[デモ DEMO/SONG]と[ピアノ PIANO/VOICE]ボタンを同時に押したまま、A#-1鍵盤を押します。

操作音をオフにする

[デモ DEMO/SONG]と[ピアノ PIANO/VOICE]ボタンを同時に押したまま、A-1鍵盤を押します。



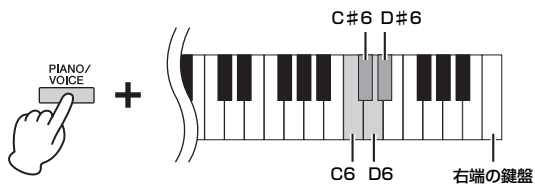
初期設定:

オン

鍵盤のタッチ感度を変える

鍵盤を弾く強さを変えたときの、音の強弱の付き方(タッチ感度)を、4種類の中から選びます(鍵盤自体の重さは変わりません)。

[デモ DEMO/VOICE]ボタンを押したままC6~D#6の鍵盤を押して、タッチ感度を設定します。



NOTE

オルガンなど一部の音色では、タッチによる音の強弱は付きません。

初期設定:

C#6 (ミディアム)

鍵盤	タッチ感度	説明
C6	ソフト	軽いタッチで大きい音が出ます。比較的音のつぶがそろいやすいタッチです。
C#6	ミディアム	標準的なタッチです。
D6	ハード	大きな音を出すためには、より強いタッチで弾いてください。
D#6	フィックス	タッチの強弱にかかわらず一定の音量が出ます。

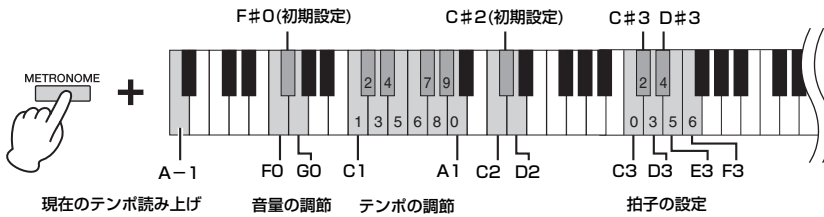
メトロノームを使う

この楽器は、メトロノーム(ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具)を備えています。ご活用ください。

1. [METRONOME]^{メトロノーム}ボタンを押すと、メトロノームが鳴り出します。
2. [METRONOME]ボタンを押すと、メトロノームは止まります。

メトロノームの設定

[METRONOME]ボタンを押したままグレーの鍵盤のどれかを押すことで、メトロノームの設定ができます。設定内容は下の説明をご覧ください。



現在のテンポの値を音声(英語)で読み上げる

[METRONOME]ボタンを押したままA-1鍵盤(左端の鍵盤)を押します。

拍子の設定

[METRONOME]ボタンを押したままC3~F3鍵盤のどれかを押します。

たとえば、3 (D3)に設定すると「チーンカチカチ」となります。

初期設定は拍子なし(C3)です。この場合すべての拍で「カチカチ」と鳴ります。

テンポの調節

メトロノームを5~280 (1分間の拍数)の範囲で設定できます。

- **テンポを1ずつ上げる/下げる**
[METRONOME] ボタンを押したまま[+R]または[-L]ボタンを押します。
メトロノームが鳴っているときは、[+R]または[-L]ボタンを押してテンポを1ずつ上げたり下げたりできます。
- **テンポを10ずつ上げる/下げる**
[METRONOME]ボタンを押したままD2 (上げる)またはC2 (下げる)鍵盤を押します。
- **テンポを数値入力する**
[METRONOME]ボタンを押したままC1~A1 鍵盤のどれかを押して、数字を設定します。2桁までの数値を入力して[METRONOME]ボタンから指を離すか、3桁の数値を入力すると、数値が確定します。
- **テンポを初期設定(120)に戻す**
[METRONOME]ボタンを押したまま、[+R]と[-L]ボタンを同時に押すか、C#2 鍵盤を押します。メトロノームが鳴っているときは、[+R]と[-L]ボタンを同時に押すと、テンポを初期設定に戻せます。

音量の調節

[METRONOME]ボタンを押したままF0 (1ずつ下げる)またはG0 (1ずつ上げる)鍵盤を押して音量を設定します。初期設定に戻すには[METRONOME]ボタンを押したままF#0鍵盤を押します。

鍵盤	拍子
C3	0 (拍子なし)
C#3	2
D3	3
D#3	4
E3	5
F3	6

NOTE

テンポの数値入力では、入力した数値を音声(英語)で読み上げます。設定範囲外の数値が入力された場合は操作が無効になります。

設定範囲:
1~10

初期設定:
7 (F#0)

音色を楽しむ

音色を選ぶ

CFX グランドを選ぶには

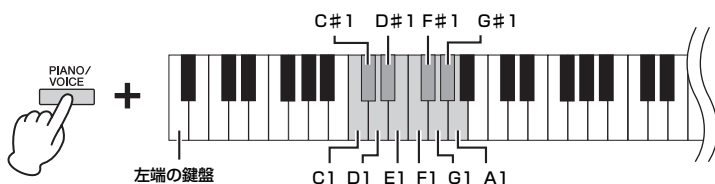
[PIANO/VOICE]^{ピアノ} ボイス^{ボイス}]ボタンを1回押します。

ほかの音色を選ぶには

[PIANO/VOICE]ボタンを押したあと、[+R]または[-L]ボタンを押して、音色を順次切り替えます。

特定の音色を直接選ぶには

[PIANO/VOICE]ボタンを押したままC1～A1鍵盤のどれかを押します。各鍵盤に割り当てられた音色は、以下のリストをご参照ください。



NOTE

音色の特徴をつかむには、音色ごとのデモ曲を聞いてみてください。(19ページ)

NOTE

ボイス=音色(楽器音)

音色リスト

鍵盤	音色名	音色紹介
C1	CFX グランド	コンサートグランドピアノ CFXからサンプリングされたこの音色は、弱いタッチから強いタッチまでのなめらかな音色変化が表現できます。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
C#1	メロウグランド	温かみのあるソフトなピアノの音です。バラードの演奏に最適です。
D1	ポップグランド	ブライトなピアノの音です。クリアに音を目立たせたい曲に最適です。
D#1	ステージエレピ	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
E1	DX エレピ	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
F1	ハープシコード	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによって音量は変わらず、鍵盤を離れたときには独特の発音があります。
F#1	ビブラフォン	比較的柔らかなマレットでたたいたビブラフォンの音です。強く弾くほど金属的な音になります。
G1	パイプオルガン	パイプオルガンのプリンシパル系(金管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。
G#1	ジャズオルガン	歯車回転式電気オルガンの音です。ジャズ、ロックなどの音楽でよく用いられます。左ペダルの操作で、エフェクトである回転スピーカー効果のスピードを速くしたり遅くしたりできます。
A1	ストリングス	ステレオサンプリングでリアルな響きがする大編成弦楽アンサンブルの音です。ピアノとのデュアルでも楽しめます。

デモ曲を聞く

この楽器には、音色ごとに1曲ずつデモ曲が入っています。聞いてみましょう。

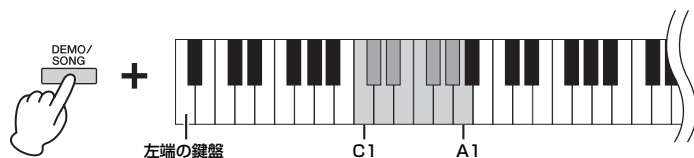
1. [DEMO/SONG]ボタンを押します。

今選ばれている音色のデモ曲がスタートします。再生中は[PLAY]ボタンのランプがテンポに合わせて点滅します。デモ曲はストップするまで、選択した音色のデモ曲からデモ曲リストの順に連続して再生されます。

再生中の曲変更

[+R]または[-L]ボタンを押すと、他のデモ曲へ順次切り替わります。

特定のデモ曲を選択するには、[DEMO/SONG]ボタンを押したままC1～A1鍵盤のどれかを押します。



NOTE

テンポの調節方法は、17ページをご覧ください。

2. [DEMO/SONG]または[PLAY]ボタンを押して、再生をストップします。

[PLAY]ボタンのランプが消灯します。

デモ曲リスト

鍵盤	音色名	曲名	作曲者
C1	CFX グランド	組曲ゴイエスカスー恋するマホたち 第2部第7番「エル・ペレレ(ゴヤ風な情景)」	E. グラナドス
C#1	メローグランド	子供の情景「見知らぬ国と人びと」 op.15-1	R. シューマン
D1	ポップグランド	オリジナル	—
D#1	ステージエレピ	オリジナル	—
E1	DX エレピ	オリジナル	—
F1	ハープシコード	チェンバロ協奏曲 第7番 BWV 1058	J. S. バッハ
F#1	ピブラフォン	オリジナル	—
G1	パイプオルガン	オルガン小曲集「神のひとり子なる主キリスト」 BWV 601	J. S. バッハ
G#1	ジャズオルガン	オリジナル	—
A1	ストリングス	オリジナル	—

「オリジナル」は、ヤマハのオリジナル曲です。(© Yamaha Corporation)

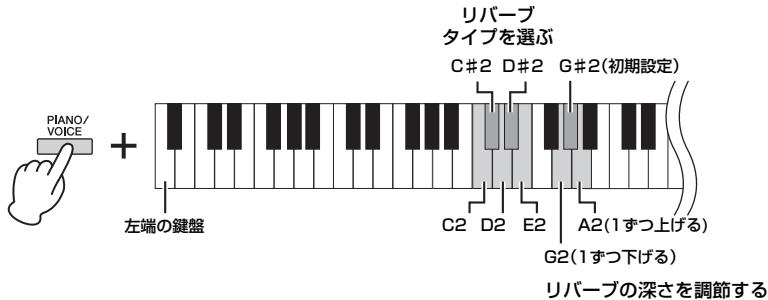
「オリジナル」以外のデモ曲は、原曲から編集/抜粋されています。

音に残響を付ける(リバーブ)

この楽器にはいくつかのリバーブタイプが用意されており、コンサートホールやライブハウスで演奏しているような残響効果をかけたり、その深さ(かかり具合)を変えることができます。リバーブタイプとその深さは、音色やソングを選択するだけで最適なものが自動で呼び出されます。したがって、通常は設定の必要はありませんが、自由に変更できます。

リバーブタイプの設定

[PIANO/VOICE]^{ピアノ} ボイス^{ボイス}]ボタンを押したままC2~E2鍵盤のどれかを押します。



NOTE

デュアル(22ページ)のときのリバーブタイプは、音色の組み合わせによって最適なものが1つ自動で呼び出されます。

リバーブタイプリスト

鍵盤	リバーブの種類	説明
C2	リサイタルホール	ピアノリサイタル向けの中規模ホールのクリアな響きになります。
C#2	コンサートホール	オーケストラの公演が行なわれる、大きなホールの華やかな響きになります。
D2	サロン	室内楽に適した、宮廷内の広間の落ち着いた響きになります。
D#2	クラブ	ライブハウスやジャズクラブのメリハリのある響きになります。
E2	オフ	リバーブはかかりません。

深さ(かかり具合)の調節

[PIANO/VOICE]ボタンを押したままG2 (1 ずつ下げる)またはA2 (1 ずつ上げる)鍵盤を押します。

[PIANO/VOICE]ボタンを押したままG#2鍵盤を押すと、その音色に最適なリバーブの深さ(初期設定)に戻ります。

設定範囲:

深さ: 0 (効果なし)~20 (深さ最大)

キー (調) を変える (トランスポーズ)

弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さに半音単位でキー (調) を合わせることができます。この機能をトランスポーズといいます。

たとえばトランスポーズを「+5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「ハ長調」の弾きかたで「ヘ長調」の演奏になります。

キーを下げる

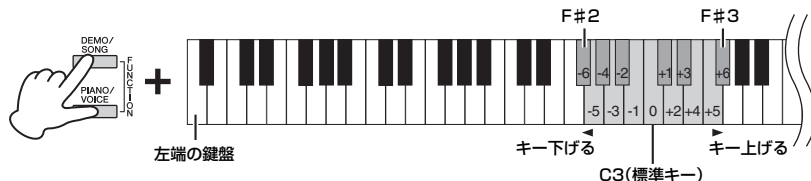
[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]ボタンを同時に押したまま、F#2 (-6)~B2 (-1) 鍵盤のどれかを押します。

キーを上げる

[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]ボタンを同時に押したまま、C#3 (+1)~F#3 (+6) 鍵盤のどれかを押します。

キーを標準に戻す

[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]ボタンを同時に押したまま、C3鍵盤を押します。



NOTE

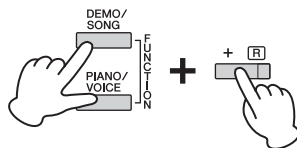
トランスポーズは鍵盤演奏、ソング再生(24ページ)に有効です。

音の高さを微調整する (チューニング)

楽器全体の音の高さを微調整する機能です。ほかの楽器やCDの再生音などと音の高さを正確に合わせたい場合に使います。

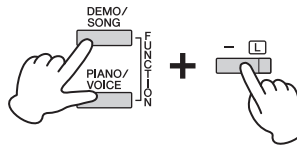
音の高さを上げる (約0.2 Hz単位)

[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]ボタンを同時に押したまま、[+R]ボタンを押します。



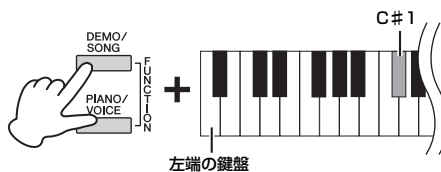
音の高さを下げる (約0.2 Hz単位)

[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]ボタンを同時に押したまま、[-L]ボタンを押します。



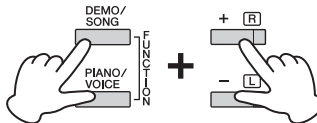
音の高さを442.0 Hzに設定する

[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]ボタンを同時に押したまま、C#1鍵盤を押します。



音の高さを初期設定値(440.0 Hz)に戻す

[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]ボタンを同時に押したまま、[+R]と[-L]ボタンを同時に押します。または、[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]ボタンを同時に押したまま、C1鍵盤を押します。



Hz (ヘルツ)とは

音の高さを示す単位です。音の高さは音波の振動数によって決まります。1秒間に何回振動するかという数値の単位がHzです。

設定範囲:

414.8~466.8 Hz

初期設定:

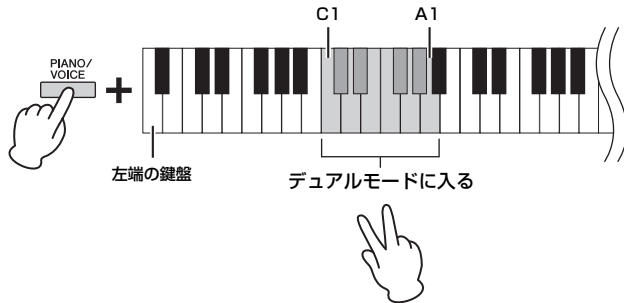
A3=440.0 Hz

2つの音色を重ねる(デュアル)

2種類の音色を重ねて鳴らすことができます。重ねて鳴らすことにより、厚みのある音を作り出せます。

1. デュアルモードに入ります。

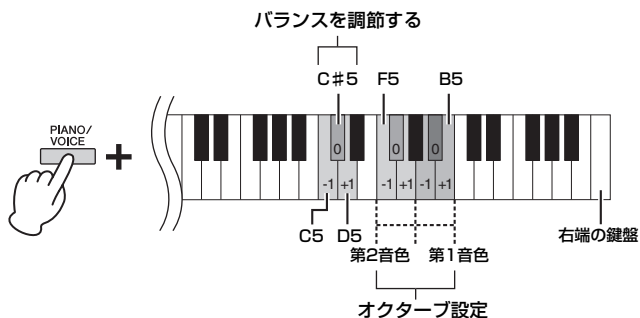
[PIANO/VOICE]^{ピアノ}/ボイス]ボタンを押したまま、C1～A1鍵盤のうち2つの鍵盤を同時に(または、ひとつの鍵盤を押したままもう一方の鍵盤を)押し、重ねたい2つの音色を選びます。各鍵盤に割り当てられた音色は、「音色を選ぶ」(18ページ)をご参照ください。



上記の手順で選んだ2つの音色のうち、左側の鍵盤に割り当てられた音色が第1音色、右側の鍵盤に割り当てられた音色が第2音色になります。第1音色と第2音色に同じ音色を割り当てることはできません。

各音色のオクターブを上げる/下げる

下のイラストを参考に、[PIANO/VOICE]ボタンを押したまま、F5～G5またはA5～B5鍵盤のどれかを押します。例えば、[PIANO/VOICE]ボタンを押したままB5鍵盤を2回押すと、第1音色が2オクターブ上がります。初期設定に戻すには、[PIANO/VOICE]ボタンを押したままA#5鍵盤(第1音色)またはF#5鍵盤(第2音色)を押します。



2音色の音量バランスをとる

[PIANO/VOICE]ボタンを押したまま、C5 (1ずつ下げる)またはD5 (1ずつ上げる)鍵盤を押します。

設定値が0のとき、両音色は初期設定の音量になります。設定値が+6に近づくほど第1音色の音量が大きくなり、-6に近づくほど第2音色が大きくなります。

2. デュアルモードを抜けます。

[PIANO/VOICE]ボタンを押すとデュアルモードを抜け、通常の演奏状態に戻ります。

NOTE

デュアルとデュオ(23ページ)の機能は同時には使えません。

設定範囲：

-2～0～+2

設定範囲：

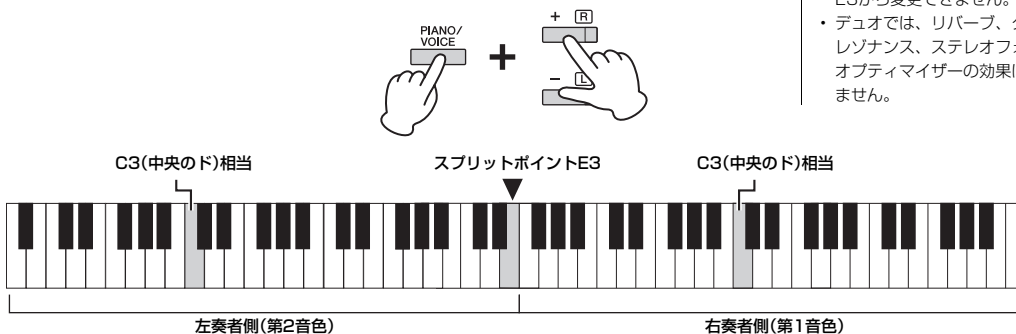
-6～0～+6

二人で一緒に弾く(デュオ)

鍵盤を左右に分けて、同時に二人が同じ音域で演奏できます。1台の楽器で二人同時に演奏したり、二人並んで座り、一人がお手本を弾き、もう一人がそれを見ながら練習する、といった使い方ができます。

1. ^{ピアノ}[PIANO/VOICE]^{ボイス}ボタンを押したまま、[+R]と[-L]ボタンを同時に押します。

E3が鍵盤の境目(スプリットポイント)となり、左奏者側と右奏者側に分かれます。



NOTE

- ・右奏者側(第1音色)と左奏者側(第2音色)で異なる音色は設定できません。
- ・デュオのスプリットポイントはE3から変更できません。
- ・デュオでは、リバーブ、ダンパーレゾナンス、ステレオフォニックオプティマイザーの効果はかかりません。

2. 左側鍵域と右側鍵域に分かれて、2人で演奏しましょう。

左右の鍵域のオクターブを上げる/下げる

デュアルの「各音色のオクターブを上げる/下げる」(22ページ)と同じ操作です。デュオの場合、左側鍵域が第2音色、右側鍵域が第1音色になります。

左右の鍵域の音量バランスをとる

デュアルの「2音色の音量バランスをとる」(22ページ)と同じ操作です。設定値が+6に近づくほど右側鍵域の音量が大きくなり、-6に近づくほど左側鍵域が大きくなります。

デュオ機能でのペダル効果

- ・ダンパーペダル: 右側鍵域のダンパー効果
- ・ソステヌートペダル: 左右両鍵域のダンパー効果
- ・ソフトペダル: 左側鍵域のダンパー効果

3. デュオを解除するには、[PIANO/VOICE]ボタンを押したまま、[+R]と[-L]ボタンを同時に押します。

設定範囲:

-2~0~+2

設定範囲:

-6~0~+6

NOTE

左側で弾いている音は左のスピーカーから、右側で弾いている音は右のスピーカーから出ます。

NOTE

デュアルがオンの状態で、デュオに入るとデュアルは解除されます。音色は第1音色になります。

ソング再生と練習

クラシック名曲50選(プリセットソング)を聞く

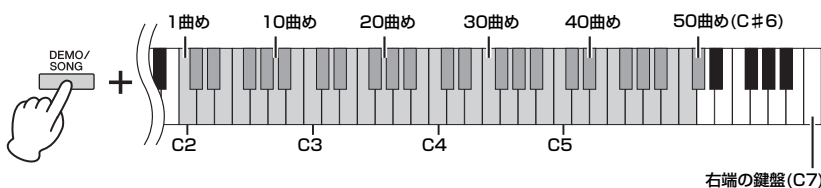
この楽器には、音色のデモ曲の他にクラシック名曲50選の演奏データが入っています。

1. 聞きたい曲の番号を調べます。

曲の番号は、クラシック名曲50選(プリセットソング)一覧(36ページ)、または付属のクイックオペレーションガイド、クラシック名曲50選(楽譜集)で確認できます。

2. [DEMO/SONG]ボタンを押したままC2~C#6鍵盤のどれかを押し、ピアノ曲の再生をスタートします。

C2~C#6鍵盤(以下参照)にはクラシック名曲50選が割り当てられています。



再生中は[+R]、[-L]ボタンのランプが点灯し、[PLAY]ボタンのランプはテンポに合わせて点滅します。

再生をストップするまで、クラシック名曲50選(プリセットソング)が順に連続して再生されます。

再生中に曲を切り替える

[+R]または[-L]ボタンを押します。

再生中にテンポを変更する

[METRONOME]ボタンを押したまま[+R]または[-L]ボタンを押して、1ずつテンポ値を増減します。そのほかの方法は、メトロノームの場合(17ページ)と同じです。

曲の最初から再生する

曲の再生中、[+R]と[-L]ボタンを同時に押すと、曲の先頭から再生します。

曲の再生中、テンポを変更(上記)したあとで[+R]と[-L]ボタンを同時に押すと、そのままのテンポで曲の先頭から再生します。

3. [DEMO/SONG]または[PLAY]ボタンを押して、再生をストップします。

[PLAY]、[+R]、[-L]ボタンのランプが消灯します。

ソングとは

この楽器では、演奏データを総称して「ソング」と呼んでいます。デモ曲やクラシック名曲50選(プリセットソング)選も演奏データです。

NOTE

クラシック名曲50選(プリセットソング)の再生に合わせて、鍵盤を弾くことができます。その際、音色を変えることもできます。

NOTE

クラシック名曲50選(プリセットソング)、音色のデモ曲、コンピューターから読み込んだソング(最大10曲)は、各カテゴリー内で連続再生します。

NOTE

[USB TO HOST]端子に接続したコンピューターからスタンダードMIDIファイル(SMFファイル)を転送することで、ソングを追加できます。詳細は電子マニュアル(4ページ)「コンピューターとつなぐ」をご覧ください。

コンピューターから読み込んだ曲を聞く

コンピューターからソングデータをこの楽器に10曲転送し、楽器で再生できます。コンピューターからソングを転送する方法や、楽器での再生方法については、電子マニュアル(4ページ)の「コンピューターとつなぐ」をご覧ください。

コンピューターと送受信できるファイル

拡張子が.midのMIDIソングファイル(SMFフォーマット0、フォーマット1)

NOTE

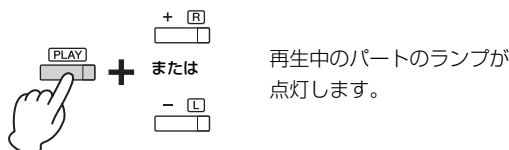
SMFフォーマット0や1のデータでも、この楽器が対応しないデータを含む場合は、データどおりに再生できません。この場合、再生チャンネルを変更すると、本来のソングに近い音を再現できることがあります。詳しくは電子マニュアル(4ページ)の「MIDIリファレンス」をご覧ください。

パートを指定して片手練習する

音色のデモ曲(19ページ)以外のソングは、パートごとに再生のオン/オフを設定できます。[+R]ボタンをオフにすれば右手の練習が、[-L]ボタンをオフにすれば左手の練習ができます。

1. プリセットソング(24ページ)またはユーザーソング(26ページ)を再生します。
2. ^{プレイ}[PLAY]ボタンを押したまま、[+R]または[-L]ボタンを押してオフにします。

[PLAY]ボタンを押したまま、同じボタンを押すたびに再生のオン/オフが切り替わります。



NOTE

他の曲に切り替わると、両パートともオンにリセットされます。

NOTE

クラシック名曲50選(プリセットソング)のNo.16~20は連弾曲です。これらの曲では、右手パートが第1奏者用、左手パートが第2奏者用です。

3. オフにしたパートを練習しましょう。

テンポを調節するには

必要に応じてテンポ調節ができます。詳細は17ページをご覧ください。

4. [PLAY]ボタンを押して、再生をストップします。

最初の発音からすぐにスタートする(クイックプレイ)

最初の音の前に空白がある曲(弱起の曲など)を再生する場合に、実際に音が鳴るところから再生するか、休符や空白を含めて曲のデータどおりに再生するかを選びます。

クイックプレイをオンにする

[DEMO/SONG]ボタンを押したままA#-1鍵盤を押すと、最初の発音、もしくはダンパーペダルの操作情報のところから再生します。



クイックプレイをオフにする

[DEMO/SONG]ボタンを押したままA-1鍵盤を押すと、休符や空白を含めて曲のデータどおりに再生します。



初期設定:
オン

演奏を録音する

この楽器では、録音機能を使って自分の演奏を1曲、ユーザーソング(MIDI)として録音できます。演奏は、右手パートと左手パートの2つを、個別に録音できます。録音データは、コンピューターにSMFファイルとして転送/保存できます(29ページ)。

演奏を録音する

1. 音色を選んだり、拍子などを設定します。

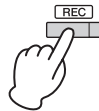
音色の選択方法については、18ページをご覧ください。必要に応じてそのほかの設定(リバーブなど)も選んでください。

2. 録音モードに入ります。

かんたん録音

[REC]ボタンを押して録音モードに入ります。この場合、自動的に右手パート([+R])が選ばれます。

かんたん録音の場合、それまでの録音データは、右手パート、左手パートとも消えてしまいますので、ご注意ください。

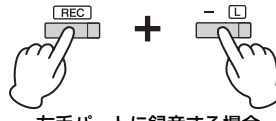


パートを指定して録音する

[REC]ボタンを押したまま、録音したいパートのボタン([+R]または[-L])を押して録音モードに入ります。



右手パートに録音する場合



左手パートに録音する場合

もう一方のパートにすでに録音データがある場合、録音と同時にパートの再生が始まりますので、それに合わせて録音できます。また、[PLAY]ボタンを押したまま、パートのボタン([+R]または[-L])を押すことで、パート再生のオン/オフを切り替えることができます。

録音を中止する場合

もう一度[REC]ボタンを押します。

3. 鍵盤を弾く、または[PLAY]ボタンを押して、録音をスタートします。

録音中は、[REC]ボタンのランプが点灯し、録音しているパートのランプが現在のテンポに合わせて点滅します。

4. [REC]または[PLAY]ボタンを押して、録音をストップします。

[REC]、[PLAY]、[+R]、[-L]ボタンのランプが点滅し、保存中であることを示します。保存が終わるとランプが消灯し、録音モードは自動的に解除されます。

5. [PLAY]ボタンを押して、録音したソングを聞きます。

もう一度[PLAY]ボタンを押すと再生は止まります。

もう一方のパートに録音する場合

上記手順を繰り返します。手順2では、「パートを指定して録音」の方法で行ないます。

NOTE

オーディオ録音したい場合は、楽器にコンピューターなどを接続する必要があります。詳しくは28ページをご覧ください。

NOTE

メトロノームを鳴らしながら録音することもできます。ただしメトロノームの音は、録音されません。

NOTE

デュオを設定している場合(23ページ)、右奏者側は右手パートに、左奏者側は左手パートに録音されません。パートを選んで録音することはできません。

注記

すでに録音データがあるパートを指定して録音した場合は、既存のデータは消えてしまいますのでご注意ください。

NOTE

本体の容量が少ない場合、録音モードにはいるとき[REC]と[PLAY]のランプが3秒間すばやく点滅します。

注記

楽器が内部のメモリーにデータを書き込んでいるとき(すべてのボタンのランプが点滅中)は電源を切らないでください。録音中のデータだけでなく、すべての記憶内容が失われる原因になります。

演奏記憶容量

この楽器に記憶できる容量は、約100KB(およそ11,000音符)です。

録音済みのユーザーソングの設定を変える

下記項目については、録音終了後に変更できます。

- ・パートごとの設定: 音色、デュアル/デュオの音量バランス、リバーブ深さ、ダンパーレゾナンス
- ・ソング全体の設定: テンポ、リバーブタイプ

1. 上記項目につき、必要な設定を行ないます。
2. ^{レコード}[REC]ボタンを押したまま、設定を変更したいパートのボタンを押して、録音モードに入ります。

[REC]、^{プレイ}[PLAY]ボタンと指定したパートのランプが点滅します。
この状態で[PLAY]ボタンまたは鍵盤を押さないでください。録音済みデータが消去されてしまいます。

3. [REC]ボタンを押したまま、[PLAY]ボタンを押して、録音モードを抜けます。

[REC]、[PLAY]、[+R]、[-L]ボタンのランプが点滅します。
保存が終わると、すべてのボタンのランプが消灯します。

[PLAY]ボタンを押して、設定が変更になったか確認してみましょう。

録音した演奏を消去する

ユーザーソング全体の消去

1. ^{レコード}[REC]ボタンを押したまま^{デモ}[DEMO/^{ソング}SONG]ボタンを押します。

[REC]と[PLAY]ボタンが交互に点滅します。
消去をキャンセルする場合は、[REC]ボタンを押します。

2. ^{プレイ}[PLAY]ボタンを押して、データを消去します。

[REC]、[PLAY]、[+R]、[-L]ボタンのランプが点滅します。
データの消去が終わると、すべてのボタンのランプが消灯します。

特定パートの消去

1. [REC]ボタンを押したまま、[+R]または[-L]ボタンを押して、録音モードに入ります。

[REC]、[PLAY]ボタンと選択されたパート([+R]または[-L])のランプが点滅します。

2. [PLAY]ボタンを押して録音を始めます(鍵盤は弾きません)。

選択されたパート([+R]または[-L])のランプが点滅します。

3. [REC]または[PLAY]ボタンを押して録音をストップします。

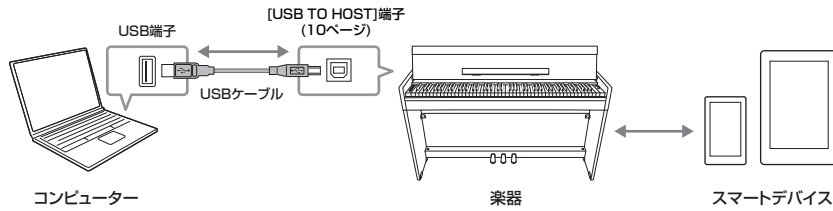
選択されたパートの全データが消去され、ランプが消灯します。

NOTE

ユーザーソングがない場合は、
[REC]と[PLAY]ボタンが約3秒間、
すばやく点滅します。

コンピューターやスマートデバイスと使う

楽器と、コンピューターやiPhone/iPadなどのスマートデバイスと接続することで、演奏情報やソングデータなどのやりとりができるようになります。接続方法について詳しくは、電子マニュアル(4ページ)「コンピューターとつなぐ」または「iPhone/iPad接続マニュアル」をご覧ください。



注記

USBケーブルを使って接続する場合は、ABタイプのものご使用ください。また、3メートル未満のケーブルをご使用ください。USB3.0ケーブルは、ご使用できません。

NOTE

MIDIに関する詳細は、電子マニュアル(4ページ)の「MIDIリファレンス」をご覧ください。

応用編

スマートデバイスのアプリケーションを使う

楽器に対応のアプリケーションを使うことにより、楽器をもっと便利に楽しむことができます。特に、専用のアプリケーション「スマートピアニスト」(無料)をスマートデバイスで使用する、外部から楽器本体の機能をコントロールでき大変便利です。対応のスマートデバイスやアプリケーションについて詳しくは、以下のウェブサイトでご確認ください。

<http://jp.yamaha.com/kbdapps/>

注記

スマートデバイスを不安定な場所に置かないでください。スマートデバイスが落下して破損するおそれがあります。

オーディオデータを再生/録音する(USBオーディオインターフェース機能)

スマートデバイスやコンピューターにあるオーディオデータを楽器で再生できます。また音楽制作用のソフトを使用すれば、楽器の演奏をオーディオデータとして録音できます。Windows搭載のコンピューターで使用する場合は、Yamaha Steinberg USB Driverをコンピューターにインストールする必要があります。詳しくは、電子マニュアル(4ページ)の「コンピューターとつなぐ」をご覧ください。

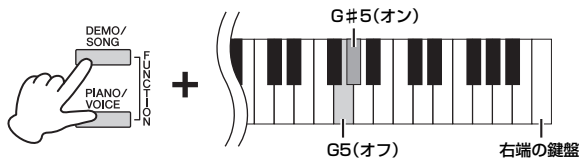
NOTE

オーディオデータの入力音量は、スマートデバイスまたはコンピューター側で調節してください。

オーディオループバックのオン/オフ

[USB TO HOST]端子からのオーディオ入力音を、楽器の演奏音に重ねて再度コンピューターなどに戻すか(オン)、戻さないか(オフ)を設定できます。

[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]ボタンを同時に押したまま、G5鍵盤を押すとオフ、G#5鍵盤を押すとオンになります。



初期設定:

オン

注記

DAW (Digital Audio Workstation)などの音楽制作用アプリケーションと一緒に使用する場合、設定によっては大きな音が発生することがあるため、オーディオループバックをオフにしてご使用ください。

データのバックアップと初期化

電源を切ったときに記憶されるデータ

下記の項目は、電源を切ってもその設定が記憶(バックアップ)されます。

- ・メトロノームの音量
- ・メトロノームの拍子
- ・タッチ感度
- ・チューニング
- ・インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)のかかり具合
- ・インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)のオン/オフ
- ・ステレオフォニックオブティマイザーのオン/オフ
- ・鍵盤操作音のオン/オフ
- ・オートパワーオフ機能の有効/無効
- ・スピーカーのオン/オフ
- ・自分で録音したソング(ユーザーソング)データ
- ・コンピューターから転送されたソングデータ(SMFファイル)

ユーザーソングデータをコンピューターに保存する

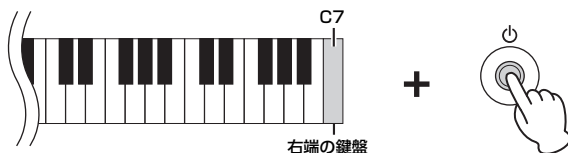
ユーザーソングデータ(USERSONG00.MID)は、スタンダードMIDIファイル(SMF)として、コンピューターへ転送できます。ユーザーソングデータをコンピューターへ転送する方法については、電子マニュアル(4ページ)「コンピューターとつなぐ」をご覧ください。

注記

保存したユーザーソングデータは、故障や誤った操作によって失われるかもしれません。大切なデータは、コンピューターなどの外部機器へ保存してください。

初期化(イニシャライズ)する

右端の鍵盤(C7)を押したまま電源を入れることにより、ユーザーソングとコンピューターから読み込んだソング以外のデータが初期化され、工場出荷時の状態になります。



注記

初期化実行中([REC]、[PLAY]、[+R]、[-L]ボタンのランプ点滅中)は、電源を切らないでください。

NOTE

この楽器が何らかの原因で操作不能になったり、誤動作した場合は、いったん電源を切り、初期化を行なってください。

困ったときは

現象	考えられる原因と解決法
電源が勝手に切れる。	故障ではありません。オートパワーオフ機能(13ページ)が働いたためです。
本体の電源が入らない。	プラグが差し込まれていません。DCプラグを本体のDC IN端子に、電源プラグを家庭用(AC 100V)コンセントに、確実に差し込んでください(12ページ)。
電源スイッチを押して電源を入れたとき、または切ったとき、「カチッ」や「ポツッ」と音がする。	電気が流れたためです。故障ではありません。
本体から雑音が出る。	本体の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。本体の近くでは、携帯電話の電源を切ってください。
iPhone/iPadなどのスマートデバイスと楽器を一緒に使っているとき、本体スピーカーやヘッドフォンから雑音(ノイズ)が出る。	スマートデバイスと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるため、スマートデバイスの機内モードをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。Bluetooth接続している場合は、機内モードをオンにすると接続が切断されますが再度接続し直せば使用できます。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	音量(マスターボリューム)が下がっています(MIN側になっています)。 [MASTER VOLUME]つまみを上げてください(12ページ)。
	2つの[PHONES]端子のどちらかに、ヘッドフォンまたは変換アダプターなどが接続されています。ヘッドフォン(変換アダプター)を抜いてください(13ページ)。
	楽器本体のスピーカーがオフになっています。スピーカーの設定をノーマルまたはオンにしてください(13ページ)。
	ローカルコントロールがオフになっています。ローカルコントロールをオンにしてください。詳細は電子マニュアル(4ページ)「MIDIリファレンス」をご覧ください。
ペダルが効かない。	ペダルコードのプラグが[TO PEDAL]端子にしっかりと差し込まれていません。本体の電源を切った状態で、ペダルコードのプラグを[TO PEDAL]端子に確実に差し込んでください。その際、プラグの金属部分が見えなくなるまで、しっかりと差し込んでください(32ページ)。
ダンパーペダルが効かない。	ペダルを踏んだまま電源を入れたためです。故障ではありません。ペダルから足を離し、再度踏み直すことで正常になります。
特定の音域でピアノ音色の音の高さ、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。異常ではありません。
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	本体の鍵盤機構は、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されています。ピアノの場合でも機構音は実際に出ているものです。異常ではありません。
楽器の起動時、ソングの選曲時、録音終了時などに[+R]と[-L]ランプが点滅する。	故障ではありません。楽器の内部処理に時間がかかっている場合に、[+R]と[-L]ランプが点滅することがあります。点滅中、楽器の操作はできないのでご注意ください。

組み立て方

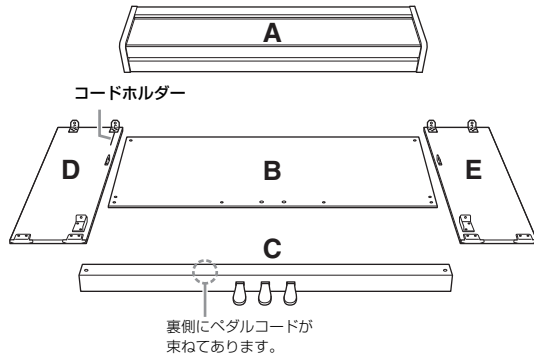
⚠ 注意

- 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- 組み立ては、必ず2人以上で行なってください。
- 硬くて平らな場所で組み立ててください。
- 付属のネジ以外のネジ、または指定されたサイズ以外のネジは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
- ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないようきつく締め直してください。
- 解体するときは、組み立てと逆の手順で行なってください。

ネジのサイズに合ったプラス(+)のドライバーを用意してください。



すべての部品を取り出し、部品がそろっていることを確かめてください。



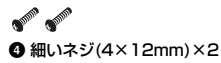
① 大きいネジ(6×25mm)×4



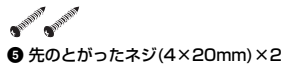
② 大きいネジ(6×20mm)×2



③ 小さいネジ(6×16mm)×4



④ 細いネジ(4×12mm)×2



⑤ 先のとがったネジ(4×20mm)×2



電源アダプター



⑥ キャップ×2



⑦ 転倒防止用金具×2

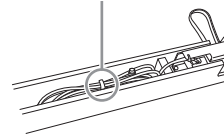
* 転倒防止用金具2個は同じものです。(左右の区別はありません)

* 転倒防止用金具は地震対策用ではありません。

1. DとEにCを仮留めします。

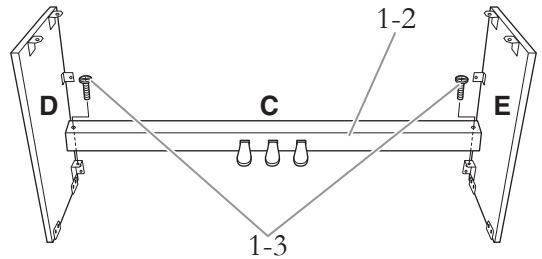
1-1 ペダルコードをほどきます。

外したビニールひもは、手順6で使用します。



1-2 Cの両端にDとEを合わせて置きます。

1-3 大きいネジ②(6×20mm)2本で仮留めします。



2. Bを固定します。

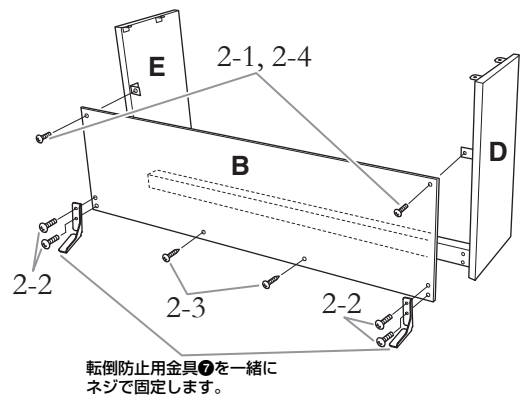
モデルによっては、Bの裏表で色が違う場合があります。この場合は、演奏者側から見たときにBの色とD、Eの色が同じになる向きで、Bを取り付けます。

2-1 Bの上側を、細いネジ④(4×12mm)2本で仮留めします。

2-2 DとEの下部を外側から押しながら、Bの下側の左右を、大きいネジ①(6×25mm)4本で固定します。このとき、転倒防止用金具⑦と一緒に固定します。

2-3 下側の残り2か所を、先のとがったネジ⑤(4×20mm)2本で固定します。

2-4 上側を仮留めしたネジ(手順2-1)をきつく締め直します。



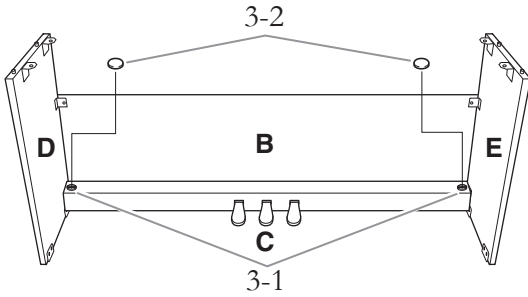
転倒防止用金具⑦と一緒にネジで固定します。

⚠ 注意

転倒防止用金具は、必ず取りつけてください。取り付けないと、本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々へのけがをきたる原因になります。

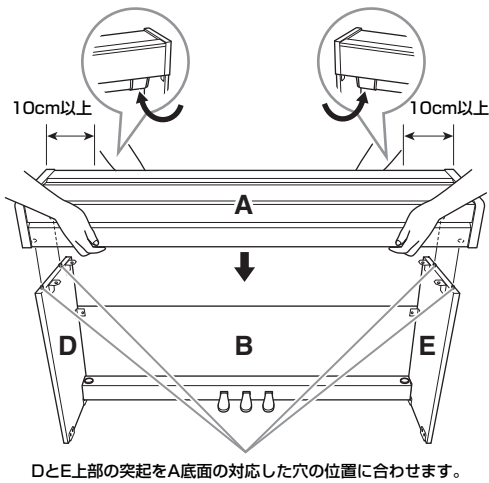
3. Cを固定します。

- 3-1 Cに仮留めしたネジ(手順1-3)をきつく締め直します。
- 3-2 ネジの頭にキャップ⑥をつけます。



4. Aをのせます。

必ずA底面の端から10cm以上内側を持ってのせます。

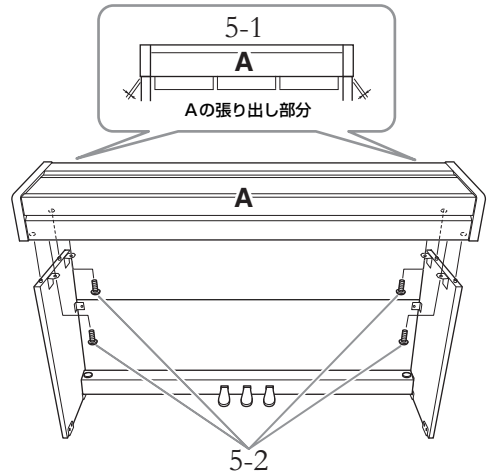


⚠ 注意

- 指をはさんだり、本体を落としたりしないよう十分ご注意ください。
- A底面の端から10cm以内を持つと指をはさむ恐れがあります。
- 指定した位置以外を持たないでください。

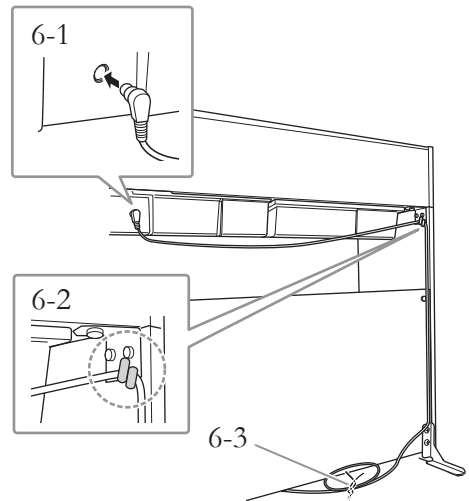
5. Aを固定します。

- 5-1 前面から見て、Aの張り出し部分が左右均等になるように調整します。
- 5-2 下面から小さいネジ⑦(6×16mm)4本で固定します。



6. ペダルコードを接続します。

- 6-1 ペダルコードのプラグを背面の[TO PEDAL]端子に差し込みます。
トゥー ペダル
- 6-2 ペダルコードを、コードホルダーで巻き付けて固定します。
コードホルダーはDに付いています。
- 6-3 ペダルコードを、手順1-1で外したビニールひもで束ねます。



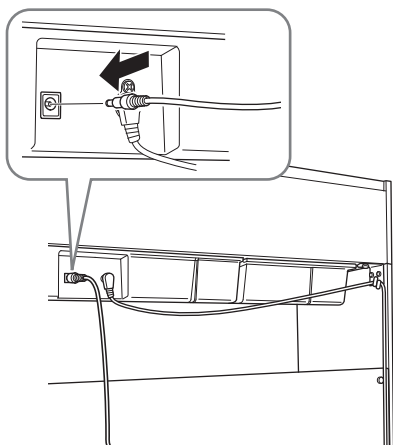
資料

ペダルコードを接続するときはプラグの金具部分が見えなくなるまでしっかり差し込んでください。しっかり差し込まれていない場合、ペダルが機能しない原因になります。

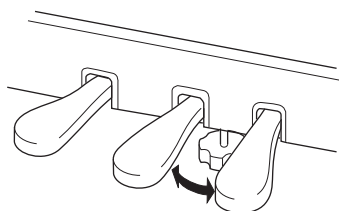


7. 電源アダプターを接続します。

電源アダプターのDCプラグをDC IN端子に差し込みます。



8. アジャスターを回して調節します。



アジャスターを回して、床にぴったりつけます。

組み立て後、必ず以下の点をチェックしてください。

- 部品が余っていませんか？
→ 組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドアなどがこの楽器にあたりませんか？
→ この楽器を移動してください。
- この楽器がぐらぐらしませんか？
→ ネジを確実に締めてください。
- ペダルを踏むと、ペダルボックスがガタガタしませんか？
→ アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ペダルコード、電源アダプターのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？
→ 確認してください。

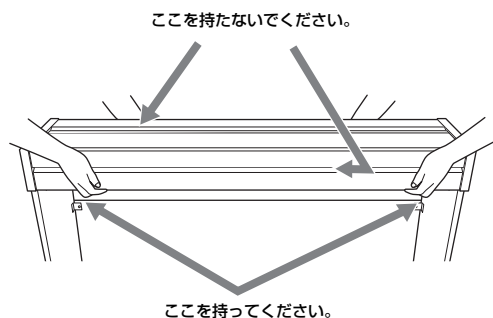
本体を移動するときは

⚠ 注意

必ず本体の底面を持ってください。本体上部の板やキーカバーを持たないでください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

注記

ペダル下のアジャスターを回し、床から離してから移動してください。床を傷つける原因になります。



引っ越しの際の運搬方法

通常の荷物と一緒に運べます。組み立てた状態でも、組み立て前の部品に解体した状態でも問題ありませんが、本体は立てかけたりせず、必ず水平に置いてお運びください。また、大きな振動、衝撃を与えないでください。組み立てた状態でお運びいただいた場合は、設置の際、各部のネジのゆるみを確認し、ゆるんでいる場合は締め直してください。

⚠ 注意

使用中に本体がきしむ、横ゆれる、ぐらぐらするなどの症状がでたら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。

仕様

品名		電子ピアノ	
サイズ/質量	幅	1,353 mm	
	高さ ()内はキーカバーを開けた場合	792 mm (968 mm)	
	奥行き ()内はキーカバーを開けた場合	296 mm (309 mm) *転倒防止金具を含めた奥行きは、388 mmになります。	
	質量	35.9 kg	
操作子	鍵盤	鍵盤数	88
		鍵盤種	グレードハンマースタANDARD(GHS)鍵盤 黒鍵マット仕上げ
		タッチ感度	ハード/ ミディアム/ ソフト/ フィックス
	ペダル	ペダル数	3
		ハーフペダル	○ (ダンパーペダル)
		ペダル機能	ダンパー、ソステヌート、ソフト
パネル	言語	英語	
本体	キーカバー (鍵盤蓋)	回転式	
	譜面立て	○	
音源/音色	音源	ピアノ音	ヤマハ CFXサンプリング
	ピアノ音源の効果	キーオフサンプリング	○
		ストリングレゾナンス	○
		ダンパーレゾナンス	○
	最大同時発音数	192	
プリセット	音色数	10	
効果	タイプ	リバーブ	4種類
		インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)	○
		ステレオフォニック オプティマイザー	○
	ファンクション	デュアル	○
デュオ		○	
録音/再生 (MIDIのみ)	プリセット	内蔵曲数	音色デモ曲：10曲、クラシック曲：50曲
	録音	曲数	1
		トラック数	2
		データ容量	1曲 約100KB (約11,000 音符)
	フォーマット	再生	SMF (フォーマット0、フォーマット1)
録音		SMF (フォーマット0)	
ファンクション	全体設定	メトロノーム	○
		テンポ	5~280
		トランスポーズ	-6~0~+6
		チューニング	414.8~440.0~466.8 Hz (約0.2 Hz単位)
	USBオーディオ(USB TO HOST)	○	
メモリー/接続端子	メモリー	内蔵メモリー	約900KB: ユーザーソング1曲(最大約100KB) + 外部ソング最大10曲
	接続端子	DC IN	12V
		ヘッドフォン	ステレオ標準フォン端子(×2)
		USB TO HOST	○
音響	アンプ出力	8 W × 2	
	スピーカー	12 cm × 2	
	アコースティックオプティマイザー	○	
電源	電源アダプター	PA-150B (またはヤマハ推奨の同等品)	
	消費電力	9 W (電源アダプター PA-150B使用時)	
	オートパワーオフ	○	
付属品	<ul style="list-style-type: none"> 取扱説明書(本書) クイックオペレーションガイド クラシック名曲50選(楽譜集) 電源アダプター: PA-150B (またはヤマハ推奨の同等品) 保証書 製品ユーザー登録のご案内 		
別売品	<ul style="list-style-type: none"> ヘッドフォン (HPH-150/HPH-100/HPH-50) ワイヤレスMIDIアダプター (UD-BT01) 		

本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

索引

H

Hz (ヘルツ)21

I

IAC14

iPhone/iPad接続マニュアル4

M

MIDI入門4

MIDIリファレンス4

U

[USB TO HOST]端子10

USBオーディオインターフェース機能28

イ

インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC) .14

オ

オーディオループバック28

オートパワーオフ13

オクターブ22

音色18

音色リスト18

音量12

音量(メトロノーム)17

音量バランス22

カ

各部の名称と機能10

片手練習25

キ

キー(調)21

キーカバー11

ク

クイックオペレーションガイド4

クイックプレイ25

組み立て方31

クラシック名曲50選24, 36

ケ

現在のテンポの読み上げ17

鍵盤操作音16

鍵盤蓋

→キーカバー11

コ

困ったときは30

コンピューター24, 28, 29

コンピューターとつなぐ4

サ

再生24

シ

仕様34

消去27

初期化(イニシャライズ)29

ス

ステレオフォニックオプティマイザー13

スピーカーのオン/オフ13

スマートデバイス28

スマートピアニスト4

ソ

ソステヌートペダル15

ソフトペダル15

ソング24

タ

タッチ感度16

ダンパーペダル15

ダンパーレゾナンス15

チ

チューニング21

テ

デモ曲19

デモ曲リスト19

デュアル22

デュオ23

電源12

電源アダプター12

電源ランプ12

電子マニュアル(PDF)4

転倒防止用具31

テンポの調節17

ト

トランスポート21

取扱説明書4

ハ

バックアップ29

ヒ

左手の練習25

拍子17

フ

付属品4

蓋

→キーカバー11

譜面立て11

プリセットソング24, 36

ヘ

ペダル15

ヘッドフォン13

ホ

ボリューム12

ミ

右手の練習25

メ

メトロノーム17

ユ

ユーザーソング26

リ

リバーブ20

リバーブタイプリスト20

リバーブの深さ(かかり具合)20

ロ

録音26

クラシック名曲50選(プリセットソング)一覧

付属の「クラシック名曲50選」に楽譜が掲載されていますので、ご活用ください。

No.	曲名	作曲者
アレンジ曲		
1	カノン	J. パッヘルベル
2	G線上のアリア	J. S. バッハ
3	主よ、人の望みの喜びよ	J. S. バッハ
4	きらきら星	トラディショナル
5	ピアノソナタ 第17番「テンペスト」第3楽章	L. v. ベートーヴェン
6	歓喜の歌	L. v. ベートーヴェン
7	子守唄	F. P. シューベルト
8	華麗なる大円舞曲	F. F. ショパン
9	英雄ポロネーズ	F. F. ショパン
10	ラ・カンパネラ	F. リスト
11	愛のあいさつ	E. エルガー
12	家路	A. ドヴォルザーク
13	シシリエンヌ	G. U. フォーレ
14	月の光	C. A. ドビュッシー
15	木星(組曲「惑星」)	G. ホルスト
連弾曲		
16	メヌエット (アイネ・クライネ・ナハトムジーク)	W. A. モーツァルト
17	メヌエット 長調	L. v. ベートーヴェン
18	トルコ行進曲	L. v. ベートーヴェン
19	ピアノ協奏曲 第1番 第2楽章	F. F. ショパン
20	くるみ割り人形メドレー	P. I. チャイコフスキー
原曲		
21	前奏曲(平均律第1巻第1番)	J. S. バッハ
22	メヌエット 長調	J. S. バッハ
23	ピアノソナタ 第15番 第1楽章	W. A. モーツァルト
24	トルコ行進曲	W. A. モーツァルト
25	ピアノソナタ 第8番 「悲愴」第2楽章	L. v. ベートーヴェン
26	エリーゼのために	L. v. ベートーヴェン
27	ピアノソナタ 第14番 「月光」第1楽章	L. v. ベートーヴェン
28	即興曲 作品90 第2番	F. P. シューベルト
29	春の歌	J. L. F. メンデルスゾーン
30	幻想即興曲	F. F. ショパン
31	別れの曲	F. F. ショパン
32	革命のエチュード	F. F. ショパン
33	小犬のワルツ	F. F. ショパン
34	ノクターン 第2番 変ホ長調	F. F. ショパン
35	ノクターン 第20番 嬰ハ短調 [遺作]	F. F. ショパン
36	トロイメライ	R. シューマン
37	舟歌	P. I. チャイコフスキー
38	乙女の祈り	T. バダジェフスカ
39	愛の夢 第3番	F. リスト

No.	曲名	作曲者
40	花の歌	G. ランゲ
41	ユーモレスク	A. ドヴォルザーク
42	アリエッタ	E. H. グリーグ
43	タンゴ(スペインより)	I. アルベニス
44	エンターティナー	S. ジョプリン
45	メイプル・リーフ・ラグ	S. ジョプリン
46	亜麻色の髪の乙女	C. A. ドビュッシー
47	アラバスク 第1番	C. A. ドビュッシー
48	ケークウォーク	C. A. ドビュッシー
49	ジュトゥヴ	E. サティ
50	ジムノペディ 第1番	E. サティ

連弾曲について

連弾曲(No. 16~20)では、右手パートが第1奏者用、左手パートが第2奏者用です。

MEMO

MEMO

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

● 保証期間

保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

有寿命部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

有寿命部品の例
ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、
接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ドラムパッドなど

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

● 修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。


それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへ修理をお申し付けください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

■ 修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル(全国共通番号)
 **0570-012-808**
ナビダイヤル® ※固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は TEL 053-460-4830 へおかけください。

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00

(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

FAX 東日本(北海道/東北/関東/甲信越/東海)

03-5762-2125

西日本(北陸/近畿/中国/四国/九州/沖縄)

06-6649-9340

◆ 修理品お持込み窓口

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00

(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006

東京都大田区平和島2丁目1-1

京浜トラックターミナル内14号棟A-5F

FAX 03-5762-2125

西日本サービスセンター

〒556-0011

大阪市浪速区難波中1丁目13-17

ナンバ辻本ニッセイビル7F

FAX 06-6649-9340

*名称、住所、電話番号、営業時間などは変更になる場合があります。

◆電子ピアノの仕様や取り扱いに関するお問い合わせ

ご購入の特約店または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター 電子ピアノ・キーボードご相談窓口



ナビダイヤル(全国共通番号)

0570-006-808

ナビダイヤル® ※固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は TEL **053-460-5272** へおかけください。

受付： 月曜日～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

<http://jp.yamaha.com/support/>

◆ウェブサイトのご案内

ヤマハ株式会社ホームページ
<https://jp.yamaha.com/>

ヤマハピアノ・鍵盤楽器サイト
<http://jp.yamaha.com/piano/>

ヤマハダウンロード
<http://download.yamaha.com/jp/>

ヤマハミュージックデータショップ
<https://yamhamusicdata.jp/>

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

* 都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などが変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

Manual Development Group
© 2018 Yamaha Corporation

2018年1月 発行 MWMA*.**.A0

ZX63540